

まきりは

VOL.29 令和6年1月

私たちの理念

PURPOSE 社会的意義

Medical for Happiness

一人ひとりの幸せな人生を支えるために

PROMISE 私たちの約束

「Professional」

医療人としての誇りと謙虚さをもち、日々研鑽を重ねます。

「Heart」

あたたかい想いやりの心とともに、あなたに寄り添います。

「Team」

和をもった信頼されるチームで、あなたを支えます。

contents

P1 新しい年を迎えて 院長 泰永 募

P2 第1回牧リハ学術フェスティバル

P3 11月11日は介護の日 ～備えあれば憂いなし～

P4 フレッシュマンインタビュー

P5 訪問リハビリテーションダイアリー 訪問言語聴覚士の仕事

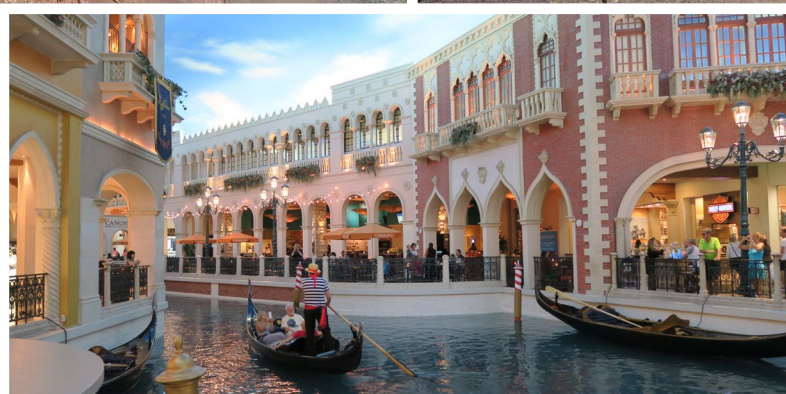
P6 デイケア門真だより

様々な変化を楽しみながら、もっと前へ!

P6 「RUN伴+門真」に参加しました

P7 海外・国内の美しい風景

旅するドクター2





新しい年を迎えて

皆様、あけましておめでとうございます。

昨年を振り返りますと、異常気象、イスラエル・パレスチナ情勢、慢性的な人手不足などが報道されたように思います。異常気象では、35℃を越える日々が続いたかと思うと、11月になって急に冷え込んだりして、体調を崩された方も多いかと思います。世界的にも異常気象が問題となり、温室効果ガスの排出制限が叫ばれています。イスラエル・パレスチナ情勢では、ウクライナ・ロシアが落ち着かないうちに、イスラエルがガザに侵攻し、世界の分断化が心配され、日本でも国防議論が交わされています。人手不足では、物流業界の運転手不足、土木建築業界の人夫不足、医療機関のスタッフ不足など、高齢化社会が進むことにより、各種産業の担い手が不足する構図となっています。

もちろん、明るい話題もあります。5月8日に新型コロナが5類に引き下げられ、出入国の制限が撤廃されました。日本人の海外脱出や、外国人の日本訪問などで、大きな経済効果が出ています。また、38年ぶりに阪神タイガースが日本一を制し、関西が大きく盛り上がりました。この勢いは2025年の大阪・関西万博にも引き継がれることと思います。

院長 泰永 募

さて、新型コロナが5類に引き下げられたことを受けて、当院でも面会制限を緩めてきました。従来は、パソコンを通じてのオンライン面会だけであったのを、対面面会にしました。先日、患者さんとそのご家族の対面面会に立ち会い、痛感したことがあります。その患者さんはうつ症状があり、モチベーション低下が著しく、訓練がままならない状態でした。しかし、ご家族に励まされ、面会後の訓練では精を出すようになりました。『家族の愛情』がうつ症状の患者さんの心を揺り動かししました。いくら医学理論を振りかざしても、『家族の愛情』にはかないませんでした。

回復期医療とは、患者さんの自宅復帰への行程です。コロナ禍前は、退院後の生活にスムーズに移行できるよう、入院中に家屋評価・退院前カンファレンス(場合により試験外泊)などを行っていました。現在、前述の対面面会だけでなく、家屋評価や退院前カンファレンスの制限を徐々に緩めています。また、患者さんの病状をより詳しく把握していただけるよう、ご家族の訓練室視察再開なども検討しています。当院での入院が、患者さんだけでなく、ご家族にとってもご満足いただけるよう、引き続き努力してまいります。

どうぞ本年もよろしくお願い申し上げます。

第1回



牧リハ学術フェスティバル



牧リハビリテーション病院 教育委員会

言語聴覚士 梶山 良平(かじやま りょうへい)

昨年の11月17日、第1回牧リハ学術フェスティバルが開催されました。学術フェスティバルは「発表のスキルアップ」、「多職種の情報・意見の交換」をアットホームな場で実現するために河野副院長を中心に教育委員会で企画したものです。

「熱く燃え上がりたい」という願いを込めてテーマは「炎」です。発表は全部で8演題、当日は医師・リハビリスタッフ・看護師・薬剤師・MSWなど多くの職種が参加し大盛況となりました。どの演題も学術大会のテーマに恥じないような熱い討議が繰り広げられ、あっという間の90分となりました。

本年も学術活動に力を入れ、リハビリテーションの充実に努めてまいります。何卒よろしくお願い致します。



開会式は泰永院長の「炎の鐘」と掛け声でスタート



感動と笑いの表彰式

最優秀賞に選出された松田若奈さんには「赤いボールペン(牧リハファイアーボールペン)」と「賞状」。副賞として「赤いソーセージ(牧リハファイアーソーセージ)」が贈呈されました。

【プログラム】

開会式 開会宣言: 泰永 募 院長

演題発表 座長: 梶山良平

1. 「リハビリは来てほしい」から「ゴルフがしたい」と目標が明確になった事例 訪問リハビリテーション門真: 酒井麻衣
2. NSTの挑戦～薬剤編～ NST委員会・薬剤科: 川中智映
3. デイケア勤務で外出動作の重要性に気付いた一例 デイケア門真: 下西花奈
4. LINE再獲得へのアプローチが言語機能の向上に繋がった失語症の一例 言語聴覚療法科: 松田若奈
5. 排尿ケアチーム導入に向けた取り組みと現状 看護部: 藤井絵美
6. 排泄自立に向けたアプローチを行ったことで介助量軽減に至った一例 作業療法科: 牟田口蘭
7. MSWの役割とは? ～より良い支援を目指して～ 地域連携室: 渡邊裕美
8. 在宅復帰に向けて、排泄動作の獲得が必須であった一症例 理学療法科: 舟本紗希

表彰式 泰永 募 院長

閉会式 講評・閉会宣言: 河野勝彦 副院長

11月11日は介護の日

看護部



～備えあれば憂いなし～

“介護の日”とは、『11月11日』を介護について理解と認識を深め、介護に携わるさまざまな人々を支援するとともに地域社会の交流を促進する日として、平成20年に厚生労働大臣より発表されました。

当院では毎年この時期に介護の日のイベントを開催しており、今年は11月9日に「介護の日～備えあれば憂いなし～」をテーマに実施しました。

年を重ねていくとどうしても筋力は低下し、ちょっとしたことで転倒、入院、介護が必要な状況になります。普段から身体を動かして備えておくことは大切です。

今回のイベントでは身体を動かすことを目的に牧リハ介護士で作成したスマイル・ストレッチ体操や、身近で介護が必要になった際のオムツのあて方の講習、備えという観点から災害時に役立つグッズの紹介を行いました。

イベント後、患者さんからは「毎日、こんな体操したい」「ラップで色々できるって面白い」等、多くの感想を頂きました。今後も患者さんが楽しめたり、役立てたり出来るようなテーマを考えイベントを企画していきたいと思ひます。

介護福祉士 浅野 勉(あさの つとむ)



プログラム

◎SST

スマイル(S)・ストレッチ(S)体操(T)
略してSSTと呼んでいるストレッチ体操

◎正しいおむつのあて方

テープ式オムツとリハビリパンツ式オムツの
正しいあて方、はき方の講義

◎災害時に役立つ生活用品

懐中電灯を使って周囲全体を照らすランタン、
食品ラップと新聞を使用しての簡易皿作成、
同じく食品ラップが添え木や三角巾、絆創膏
代わりになることを紹介

FRESHMAN INTERVIEW

リハビリテーション部の紹介

私たちの新しい仲間の、素顔に迫ります!!



言语聴覚士
豊田 留実(とよだ るみ)

言语聴覚士
清原 満里奈(きよはら まりな)

Q1.なぜ言语聴覚士を目指そうと思ったのですか。

小さい頃から人の役に立って、自身も成長できるような仕事に就きたいと思っていたからです。

高校生の頃に福祉を学んでおり、その時に初めて言语聴覚士の仕事を知りました。これからの時代になくてはならない、とても必要とされる仕事内容に魅力を感じ、言语聴覚士を目指しました。

Q2.入職して半年経ちましたが、印象に残っている患者さんはいますか。

高次脳機能障害の70代女性の患者さんが印象に残っています。はじめは症状を受け入れられず落ち込んでいたため、表情が暗くあまりご自身から話することがない方でした。リハビリを続けていくなかでだんだん笑顔が増え、その方らしさがみられるようになり、ご自身から話して下さることも増えました。その大きな変化に感動したのを覚えています。

Q3.今後どのような言语聴覚士になりたいですか。

楽しいリハビリを行える人になりたいです。患者さんとの会話を大切に、その人らしさを引き出せるような人を目指したいです。そのために、正しい知識や広い視野を持ち、相手へ分かりやすく説明する力を身につけていきます。チームの一員として学びながら言语聴覚士としても人としても成長していきたいと思ひます。



Q1.なぜ言语聴覚士を目指そうと思ったのですか。

人の役にたてる仕事をしたいと思ったからです。以前勤めていた職場(広告会社)で、「私の仕事は誰かを幸せにできているのか」と感じたことがありました。これからの自分の人生を見つめ直そうと考えていた時、看護師である母の勧めで言语聴覚士という仕事を知りました。食事やコミュニケーションなど、人生の喜びや楽しみに繋がるサポートができるということに魅力を感じ、言语聴覚士を目指したいと思ひました。

Q2.入職して半年経ちましたが、印象に残っている患者さんはいますか。

先輩が担当していた70代の男性の患者さんです。入職したばかりで右も左もわからない私に「あなたなら大丈夫」と優しく声をかけてくださいました。患者さんの言葉に励まされ、不安な時期を乗り越えることができました。素敵な仕事に巡り合えたことに感謝して患者さんのためにできることを1つでも探していきます。

Q3.今後どのような言语聴覚士になりたいですか。

最後まで諦めない言语聴覚士になりたいです。学生の頃「患者さんがもう無理だと諦めていてもセラピストは最後まで諦めてはいけない」ということを先生から教えていただきました。その言葉を胸に、患者さんの気持ちに寄り添って最後まで諦めない言语聴覚士になりたいです。



精一杯支えます 「食べること」「コミュニケーション」

訪問言語聴覚士の仕事

美味しいものを食べることや、家族や孫、仲間とのコミュニケーションを生きがいに感じる方は多いのではないのでしょうか。

我々言語聴覚士は、病気や脳卒中、事故の後遺症により、食べにくい、話にくい、といった問題を抱えた方に、住み慣れた地域や社会でいつまでも「自分らしく」暮らしていけるよう、ご本人、ご家族にも寄り添いながら自宅でリハビリを提供しています。

「最近、ちょっと飲み込み難くなって」と訴えがあれば、嚥む力、飲み込む力を発揮する為のリハビリを行い、水分や食事形態の調整、食べ方のアドバイスを行うこともあります。

言葉につまってコミュニケーションが上手いかないと、つい感情的になってしまうこともありますが、コミュニケーションに必要なのは、言葉だけではなく、表情、口調、態度、ジェスチャー等から想いを受けとめることは可能です。

好きだった歌、思い出の写真など、生活には教材となるものがたくさんあります。ご家族の前でリハ



ビリを行うことで、言葉の具体的な問題をとらえやすくなります。また、思っていた以上に状況が理解できていることにも気付いてもらうことができます。

言葉の回復は、とてもゆっくりです。しかし、時間をかければ、着実にやり取りが可能になっていきます。住み慣れた場所で生活に密着して行うリハビリはとても有効ですので、諦めないでご利用頂きたいです。

当事業所には、現在2名の言語聴覚士が在籍しています。リハビリのご希望があれば、ケアマネジャーに相談してご依頼下さい。

安心して好きなものを食べて欲しい。少しでもコミュニケーションが取れるようになってほしい。一人ひとりの「日常生活」や「自分らしさ」を取り戻して頂けるよう尽力致します。諦めないリハビリで地域の利用者さんの「食べること」や「コミュニケーション」を精一杯支えていきたいと思っています。

言語聴覚士 江角 宏之(えすみ ひろゆき)



デイケア 門真だより

様々な変化を楽しみながら、もっと前へ！



デイケア門真に赴任してから、気づけば半年が過ぎました。赴任当初と比べると、世間的には「withコロナ」が浸透しており、当施設もパーティーの数を徐々に減らすなど、感染拡大に注意しながらも以前の生活を取り戻しつつあります。先日も4年ぶりに「RUN伴+門真」という地域活動に参加し、オレンジのTシャツを着て、利用者さんと一緒に門真の町を歩くことができました。長い間自粛した状態が続いていたので、解放感もあり、非常に心地良かったです。

2024年は自粛ムードから解き放たれ、色々な変化が起こっていく年となるでしょう。また、事業所としても診療報酬・介護報酬の同時改定があり、もっと前へ進んでいけるような変化を必要とする年でもあります。スタッフ一丸となり、今までの“殻”を破っていける柔軟さとパワーを発揮し、利用者さんや地域の皆様と楽しい1年を過ごせるよう努めていきたいと思っています。

本年も牧デイケア門真を、よろしくお願い申し上げます。



責任者 理学療法士 紙谷 拓樹(かみたに ひろき)



門真市市制60周年記念事業

みんなでつなごう！ 笑顔の輪！
RUN伴+門真
今和5年10月28日

みんなであつなごう！
門真の輪！
認知症になっても
ひとり歩きができるまちへ！

爽やかな秋晴れの空の下、門真のまちがオレンジ色に彩られ、みんなでつないだ輪がより一層輝いた一日でした。

10月28日(土)認知症の方や高齢者、家族、支援者、市民の皆さんが共に歩き、共に走りながらゴールを目指すイベント『RUN伴+門真』が開催されました。(主催：ゆめ伴プロジェクトin門真実行委員会 RUN伴+門真チーム)

当院からも、デイケアご利用者と職員(理学療法士、看護師、医療ソーシャルワーカー)が参加し、牧リハビリテーション病院からゴールの門真市民プラザまでを約2時間かけて歩きました。

旅するドクター 2

今号の表紙: グランドキャニオン、ラスベガス(アメリカ合衆国)

泰永院長が旅の途中で撮影した、海外・国内の美しい風景を紹介します。

今回は、数年前に訪れたグランドキャニオン、ラスベガスのお話をします。

両方とも有名な観光地で、セットになったバックツアーも多いと思います。でも、航空券+ホテル+現地ツアーの個人旅行としました。まず、ロサンゼルス経由でラスベガスまで乗り込みました。ロサンゼルス空港の乗り継ぎが結構厄介で、ターミナルを移動しなければなりません。個人旅行のため、ガイドがおらず、危うく迷子になりそうでした。何とかラスベガスに到着し、その日はホテルで休息しました。

翌日、日本人対象のグランドキャニオン1泊2日の現地ツアーで、ラスベガスからグランドキャニオンまで約440kmを、約6時間かけ、ひたすら車で移動しました。

写真上段①は、ヘリコプターに乗って、空からグランドキャニオンを見下ろした時の写真です。崖上展望台からの眺望も良いのですが、やはり、空中からの360°の眺めが良かったです。特に、ヘリコプターが、崖上すれすれから谷に飛び出した時に、あたかも谷に真っ逆さまに落ちていくように錯覚し、とてもスリリングでした。

写真中段左②は、展望台から見た夕刻のグランドキャニオンです。太陽が傾くに従い、岩肌が赤く染まり、影の部分とのコント

ラストが絶妙でした。国立公園内はバスで移動するのですが、日が暮れる

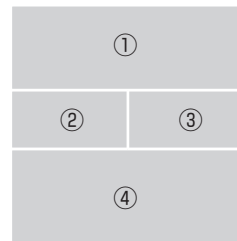
と、あたりは真っ暗になるので、足早にホテルに戻りました。

翌日、また6時間かけてラスベガスに戻りました。

ラスベガスでは、カジノで過ごしてみました。すぐ資金が無くなり、自分は賭け事に不向きなことがわかりました。また、ショーの街でもあり、ブルーマン・ショーを観覧しましたが、これは楽しかったです。さらに、ホテル巡りもしました。写真中段右③は、ベニスを模倣したホテルで、なんとホテル内に運河があり、ゴンドラが巡っています。あたかもベニスにいるような気分になさせてくれます。

ラスベガスの中心になるホテルに泊まったのですが、写真下段④は、窓から見た夜景です。ホテル前の池からは、音楽に合わせて噴水が上がるようになっています。噴水を高く上げるために、火薬を使っているとも聞きました。そして、その向こうにパリスを模倣し、ミニ・エッフェル塔を備えたホテルがあります。『眠らない街』の言葉通りに、ラスベガスは夜の方が煌めいていました。

以上、グランドキャニオンとラスベガスを紹介しました。次号もお楽しみに！



アクセス

【電車の場合】

■大阪メトロ長堀鶴見緑地線「門真南駅」下車2番出口上がってすぐ。

【お車の場合】

■近畿自動車道をご利用の方は、北行き「大東鶴見」南行き「門真」出口を降りてください。

■第2京阪道路をご利用の方は、西行き「第2京阪門真」出口を降りてください。

■中央環状線(堺方面)からお越しの方は「ラクトブーム」の看板が見えたら「茨田大宮1」交差点を右折し、セブンイレブンの角を左折後直進、1つ目の信号を左折し更に左折してください。

■中央環状線(守口・大日方面)からお越しの方は「ラクトブーム」の看板が見えたら側道へ入り、1つ目の交差点「第2京阪側道」を左折後すぐ「三ツ島」より側道へ入り、1つ目の信号を右折(高架をくぐり)更に右折後直進してください。

■1号線(第2京阪側道)〈枚方方面〉からお越しの方は、北島東交差点後、「三ツ島」より側道へ入りそのまま直進してください。

病院敷地内に駐車場がありますが、少数のため空きが無い場合はラクトブームのコインパーキングをご利用ください。

【お問い合わせ先】

社会医療法人 **ONE FLAG**

牧リハビリテーション病院

〒571-0015 門真市三ツ島3丁目6番34号

URL <http://www.maki-group.jp>

TEL. **072-887-0010**